

25075C

無病球根の効率的増殖を核とした有望球根切り花の生産流通技術開発

1 代表機関・研究総括者

宮崎県総合農業試験場・中村 薫

2 研究期間：2013～2015年度（3年間）

3 研究目的

ランキュラスとダリアにおける①低い増殖率、②ウイルス病等への罹病、③切り花の品質保持技術が未確立、の共通課題を解決し、国内外に流通可能な品目に成長させる。

4 研究内容及び実施体制

① 効率的増殖技術の開発

組織培養、ほ場それぞれのステージにおける環境条件等を明らかにし、急速増殖技術を開発する。

（宮崎総合農業試験場、秋田県農業試験場、奈良県農業総合センター）

② ウイルス等病害防除技術の開発

ウイルス・ウイロイドや貯蔵病害について、その発生状況の調査、感染経路の把握を行い、さらに検定技術を開発する。

（南九州大学環境園芸学部、宮崎総合農業試験場、奈良県農業総合センター、（独）農研機構花き研究所、山形県庄内総合支庁 農業技術普及課産地研究室）

③ 切り花の品質保持技術の開発

日持ちに関わる要因分析と品質保持技術を確立し、品質保持剤の開発とその実用化を図る。

（（独）農研機構 花き研究所、宮崎総合農業試験場、奈良県農業総合センター）

④ 普及支援業務

増殖技術および病害防除技術、品質保持技術の普及実証を行う。

（宮崎県営農支援課、山形県庄内総合支庁 農業技術普及課産地研究室、山形県農業総合センター園芸試験場、（有）綾園芸）

5 達成目標

ランキュラスおよびダリアにおいて、切り花生産に利用される球根をウイルス等病気の心配の無い状態で、現在より効率的かつ安定的に供給する。また、切り花の長期間の観賞を可能とする。

6 期待される効果

研究成果の普及により、低コストで高品質な切り花が得られ、かつ、品質保持技術により観賞期間が長く、国内外の消費者を満足させ得る切り花の生産が行われる。



ランキュラス

キンポウゲ科
塊根(球根)植物



ダリア

キク科
塊根(球根)植物

市場より生産増、産地開拓の要望

目標：日本を代表する花き品目に成長！

国産花きの有望品目！

急成長



輸出も行われ、それぞれ
30億円市場の期待

しかし 塊根(球根)植物ゆえに増殖率が低く、面積の急激な拡大は困難

球根増殖に時間とコスト
→高い球根単価

球根のウイルス病や
腐敗性病害への罹病

切り花の日持ち
(品質保持)に問題

トマト・ジャガイモに深刻な被害を及ぼす特定重要病害のPSTVdを含む

需要増加している 「今」 課題を解決できないと成長が期待できない！！

そこで

切り花の日持ち・
ウイルス：花き研究所

ウイルス：南九州大学

ランキュラス：(有)綾園芸

共通して塊根植物であり、互いに参考となる技術が多い。

そのため、研究シーズを持つ機関が技術・手法を持ち寄って2品目同時に課題解決をはかる

宮崎総農試：ランキュラス

奈良農総セ：ダリア・ウイルス

秋田農試：ダリア

山形庄内産地研：ダリア・ランキュラス

研究内容

研究

効率的増殖技術の開発

- ・宮崎総農試
- ・奈良農総セ
- ・秋田農試

ウイルス等病害防除技術の開発

- ・花き研 ・南九州大学
- ・宮崎総農試 ・奈良農総セ
- ・山形庄内産地研

切り花の品質保持技術の開発

- ・花き研
- ・宮崎総農試
- ・奈良農総セ

普及支援 ・宮崎県営農支援課 ・山形庄内産地研 ・山形園試 ・(有)綾園芸

- 成果①効率的増殖技術の確立**
②ウイルス等病害防除技術の確立
③切り花の品質保持技術の確立

各県の普及機関も連携した普及

一連の成果マニュアル作成・HP等での公開

日本を代表する品目に成長！

2016年には産出額約19億円に成長！

- ・流通量の増加、輸出量の増加
- ・種苗メーカー等での事業化
- ・園芸文化向上／国民の精神的豊かさ
- ・国内防疫体制の構築

